

川根本町 図書室だより

3月

2024年3月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

☆ 開室時間:午前9時~午後5時

☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(17日)・祝日の翌日(21日)

☆ やまびこ号巡回コースは



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『なが生きしたけりや居場所が9割』

川口雅裕 著 みらいパブリッシング

高齢期の「壁」は年齢ではない！

文



医療は病気を治すが、幸福や暮らしの楽しさを提供してくれるものではない。長い高齢期を幸福に暮らすためにもっとも大切なのは「高齢期に相応しい環境づくり」である。本書では、様々な統計データを示し、エビデンスに基づいた、高齢期に相応しい居場所づくりを示す。「まだまだ元気。でも先々はちょっと不安」そんな私たちの心が明るくなる、分かりやすく優しいメッセージが満載。

『科学がつきとめた「運のいい人」』

中野信子 著 サンマーク出版

運は100%自分次第

山



「運」というものは必ずしも、その人がもともと持っていたり生まれつき決まっていたりするものではなく「その人の考え方と行動パターンによって変わる」もの。それではどのようにしたら「運のいい人」になれるのか？ 優秀な脳科学者である著者が科学的見地から、「運のいい」考え方や行動パターンを習慣づける方法を紹介していきます。

『新装版 自分を捨てる仕事術』

石井朋彦 著 WAVE出版

鈴木敏夫が教えた「真似」と「整理整頓」のメソッド

文

アニメプロデューサー・石井朋彦。その真摯な仕事の根底にある「自分を捨てる仕事術」とは何か。「自分のなかには何もない。何かあるとしたら、それは外、つまり他人のなかである」という真実を、強い筆力で伝える1冊。スタジオジブリの名プロデューサー鈴木敏夫が若き著者に教えた、会話術、文章術、人身掌握術、トラブル対応ほか、具体的方法論のすべて。



『ほっこりみんなの育児ワザ大全』

原あいみ 著 講談社

ママたちパパたちのあの手この手

山

保護者ならだれもが日々苦戦する、はみがきやトイレや食事……。どうやったらスムーズに日常を送れるのか、無事1日が終わるのか。小さな子どもの子育て中に奮闘しつつ生み出し、また収集した「あの手この手」のワザを、あたたかくてかわいいイラストとともにご紹介。意外な解決法や育児のヒントになるワザが満載。



◎ 新着図書



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ



図書日より
バックナンバー

「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>●『余白の迷路』 赤川次郎 著 KADOKAWA 定年後、図書館に通うことを日課にしている三木。七十歳。学校に行けず図書館で時間を潰す女子高生・早織。十六歳。それぞれ平和に暮らしていたはずだったが近所で起きたホームレス殺人事件に巻き込まれてしまい調査を始めることに…。</p>	<p>●『商い同心 人情そろばん御用帖』 梶よう子 著 実業之日本社 北町奉行所で市中の物の値が適正かどうかを調べ、無許可の出版物等の差し止めを行う諸色調掛同心・澤本神人。算盤と人情の謎解きで江戸の暮らしを守り抜く!</p>
<p>●『あけくれの少女』 佐川光晴 著 集英社 「どこで、どうやって生きていくのか、うちは自分で決めたい」そう誓った真記は上京を目指すも、80年代後半の狂騒に翻弄され…。ひとりの少女の宝石のような20年間を描いた青春小説。</p>	<p>●『人間標本』 湊かなえ 著 KADOKAWA 蝶のことだけを考えながら生きていきたい。蝶の目に映る世界を欲した私は、ある日天啓を受ける。あの美しい少年たちは蝶なのだ。その輝きは標本になっても色あせることはない。膨れ上がる飢餓感の中、最高傑作を完成させるべく標本を探す…。</p>
<p>●『ラストエンペラー』 楡周平 著 KADOKAWA EV(電気自動車)全盛の時代が目前に迫っていた。大手自動車メーカー・トミタの社長、村雨克明は、後世に残るガソリンエンジン車として、トミタの最高級車種「エンペラー」の新型モデルの開発を決意する。自動車に人生を捧げた者たちの挑戦の物語。</p>	<p>●『一線の湖』 砥上裕将 著 講談社 湖山賞を競い合った展覧会から2年が経った。大学3年生になった霜介は水墨画家として成長を遂げる一方、進路に悩んでいた。そんな折、体調不良の兄弟子・西濱湖峰に代わり、霜介が小学一年生を相手に水墨画を教えることになり…。</p>
<p>●『タスキ彼方』 額賀濤 著 小学館 戦時下に箱根駅伝開催に尽力したとある大学生の日記を受け取った新米駅伝監督・成竹と学生ナンバーワンランナー神原。そこには「どうしても、箱根駅伝を走ってから死にたい」という学生達の想いが溢れていた…。</p>	<p>●『墓じまいラブソディ』 垣谷美雨 著 朝日新聞出版 「夫の墓には死んでも入りたくない」義母の遺言から始まった墓問題。それは親類や子供たちを巻き込み、墓の必要性などを考えるきっかけになっていく。「遺骨は燃えるゴミで」と言いたくなるほど面倒な、明日は我が身の墓騒動小説。</p>
<p>●『大ピンチずかん2』 鈴木のりたけ 作 小学館  たんじょうびケーキがたおれそう。おべんとうをわすれた…。こどもが出あう世の中の様々な「大ピンチ」を、大ピンチレベル順に紹介。</p>	<p>●『映画窓ぎわのトットちゃんストーリーブック』 黒柳徹子 作 講談社  1981年刊行のベストセラー、黒柳徹子著「窓ぎわのトットちゃん」。初のアニメ化となる2023年12月公開映画のストーリーを、美しいアニメ絵とともにたどる。</p>

『幸せになる勇気』 岸見一郎 / 古賀史健 著 ダイヤモンド社

誰もが幸せに生きるためにすべき「人生最大の選択」とは何か

どうすれば人は幸せに生きることが出来るか…その答えをシンプルで具体的に提示したアルフレッド・アドラーのアドラー心理学。本書は著者作ベストセラー『嫌われる勇気』の続・完結編です。前作同様「青年と哲人の対話編」の物語形式で青年はより実践的な方法を問います。ほんとうの自立、ほんとうの愛、人間知、等。アドラー思想と対話の抑揚は哲学、ドラマともに楽しめる一冊です。

ほんとうの幸せの答えはいつも自分の中にあります。一つの幸せがすべてにつながる。人生をどう創り生きていこう。精一杯ありのまま自由に。本書は答えに進む勇気、気づく勇気、いつの日も喜びあふれる幸せな世界に生きる新しき一歩。— 皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

最後までお読み頂きありがとうございました。

～図書室スタッフN子(^_^♥ 中神

